

○議長 内海 猛年君

次に6番、本田議員の一般質問を許します。本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

皆様こんにちは。6番、本田です。今年は暖冬と言われておりますが、先ほど昼食の時間帯に外に出てきましたが、特に車の中では涼しいほうのエアコンがいるくらい今日は暖かく、私も含めて寒暖差がとてもありますので、皆さんで体調気をつけていきたいなと思ったところであります。

それでは一般質問通告書に沿って質問させていただきます。

今回の質問の件名は2件あります。1件目はイベント開催時における町内の交通渋滞の緩和について。2件目は町内の空きスペースや公園に花がよりたくさん植えられたら、きれいなまちづくりの一環になる、町内を花いっぱいにする質問内容です。

芦屋町は風光明媚な美しい自然が残った町として、町内外の方々が海を求めて通年芦屋町を楽しんでおられます。特にイベント開催時や季節的には初夏から秋にかけては気候も温暖で、海辺で過ごすには気持ちのいい時期となります。町民の方から私のほうに「町内の交通渋滞についてもう少し緩和策があったらいいのにな」というお話をいただきました。私も町民の方が言われることはもっともなことだと思い、今回質問させていただいております。

現在各種イベントが開催される際の交通渋滞に向けた会議はどこが担当され、どのような内容で交通渋滞対策を考えて実行されているのか。具体的にイベント名を例に挙げたほうが回答をしていただきやすいと思いますので、花火大会とあしや砂像展、及び夏のレジャープール開催時の交通渋滞の現状をお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えさせていただきます。

まず、各種イベントが開催される際の交通渋滞に向けた会議はどこが担当しているのかということですが、花火大会につきましては実行委員会事務局が担当し、開催に関する対策等改善案を警察の指導により作成し、大会の開催をいたしております。次に、砂像展につきましては前年度の実施状況やお客様の声、反省点などを踏まえ、実行委員会での改善方法などを協議し、当年度の実施内容を決定いたしております。レジャープールにつきましては現指定管理者であります芦屋町観光協会が運営に関することを担当しており、海浜公園の駐車場管理とも併せ、前年度の実施状況を踏まえて毎年改善を図っているところです。

渋滞状況に関しましては、花火大会は交通規制がかかるため開催中は町内での渋滞は見られませんが、終了後は帰宅する車の渋滞が発生している状況です。砂像展につきましては天気にも左

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

右されますが、特に開催中の土曜日の夕方以降と日曜日のお昼前後が、来場数から考えると町内での渋滞が考えられる時間帯となっております。レジャープールにつきましてはこちらも天気に左右されますが、来場者のピークとなる7月下旬から8月上旬の週末に関しては渋滞が考えられます。芦屋町観光協会に確認したところ、昨年及び今年については期間中に1日～2日程度、ピーク時で芦屋中学校からスーパーはまゆうの辺りまで渋滞が発生したと聞いております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

それでは次ですね、交通渋滞の現状と緩和策についてお尋ねをいたします。芦屋海岸に向かう道路は、山鹿地区から芦屋橋を通行するなみかけ大橋を通行して海方向に向かう道と、芦屋側であれば正門町を通過して旧芦屋中央病院前を通る道になるかと思えます。交通渋滞を考えると、今後の芦屋町の更なる観光化を考えたときには、交通渋滞は増えることはあっても減ることは無いのかなと思っております。緩和策をどのように考えておられるのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

芦屋海岸に向かう道路の渋滞緩和策ということで回答をさせていただきます。車の行き先として考えられますのは芦屋海浜公園だと思いますが、芦屋海浜公園の駐車場は約1,000台の駐車が可能となっております。現状では、この駐車場を効率よく運用することで交通渋滞を緩和していきたいと考えております。駐車場につきましては毎年レジャープールや砂像展の開催時には前年度の状況を踏まえ、警備員の増員や配置の見直し、駐車スペースの確保のため区画や通路等を工夫するなど毎年運用の改善に努めているところでございます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

それでは住民参画の会議の開催についてお尋ねをします。町内の交通渋滞が発生しますと、住民の方々は帰宅する際に「なかなか家にたどり着かない。」といった悩みもお持ちで、そういった事々が不満になるのかなというふうに思っております。そこで、町内の交通渋滞の影響を受ける町民の方が交通渋滞緩和策の会議に参加をされて、考えを述べることはとても重要なことではないかなと思っております。現状交通渋滞を検討する会議はどのような会議があり、また、そこに

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

は住民の参加があるのかをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

現在、交通渋滞を検討するための会議というものは、当課が担当しているイベント等では開催いたしておりません。先ほども少し触れましたが、各イベントの開催運営に関する協議につきましては、住民の方や各種団体の代表者等からなる実行委員会等の会議で行われております。この会議では開催時の問題点や反省点の洗い出しや各委員からの御意見などもいただき、懸案事項改善に向け取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

町民の意見や要望を今後渋滞緩和策として取り入れることを考慮してはいかがかなというふう
に思うのですが、お考えをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

渋滞緩和を検討する会議を開催する予定はありませんが、各イベントでの懸案事項などについては各実行委員会で改善策などについて対策を検討していきたいと考えております。また、町内の各種団体や住民の方々に御参加いただき、観光推進に携わっていただいております「観光あし
や協議会」においても渋滞緩和策について議論をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

観光で芦屋町に見える方が増えることは、少なからず地域住民に影響を及ぼすことになり
ます。観光業は地域を支える主要産業でもあるため、観光業を営む企業や商店主を守りつつ、地
域住民の生活を守り、観光に見える方と地域の調和を図り共存できる環境づくりが必要かと
思いますが、お考えをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

この点につきましては観光基本構想の基本理念にも掲げてますとおり、「観光まちづくりを進めていくため、地域経済の活性化や生活環境の向上など、住民にとって住みよいまちに繋げることで、持続可能な町づくりに寄与していく必要がある」としております。観光推進にあたりましてはこの基本理念に基づき、持続可能なまちづくりに寄与していくよう努めてまいります。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町の海水浴場、レジャープール、砂像展の駐車場はどのくらいの駐車台数が駐車可能なのでしょうか。併せて、夏の交通渋滞が長くなる時間帯はある程度過去のデータを参考にしながら、どのくらいの距離が町内で渋滞が発生するということは経験則で把握をされているのかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

海水浴場、レジャープール、砂像展で使用しております芦屋海浜公園駐車場は、先ほど少しお答えいたしました約1,000台の駐車が可能となっております。夏の海水浴シーズンの渋滞状況ですが、先ほどお答えいたしましたですが天気は左右されますが、プール来場者のピークとなる7月下旬から8月上旬の週末、お昼前後が町内での渋滞が考えられる時間帯ではないかと思えます。先ほどもこれもお答えしましたが、ピーク時で芦屋中学校からスーパーはまゆう辺りまで渋滞が発生していると伺っているところでございます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

現在の芦屋海岸の駐車場の料金は夏場のレジャープール開催時期が有料となっていると思っておりますが、その認識でよろしいかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

海浜公園駐車場の有料期間は7月上旬から8月下旬の間で例年設定をしております。令和5年度は7月13日から8月27日までのレジャープール開設期間を有料とし、料金徴収をいたしました。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町で開催されますイベントは多種あり、どのイベントにも当てはまるとは考え難いとは思っておりますが、例えば夏のレジャープールにおいて駐車場のチケット制の導入を考えてみてはいかがなものかと考えております。ここで、お隣の北九州市が対応された渋滞緩和策が見事に渋滞の案件を解消したことを御紹介させていただきます。

八幡東区にある河内藤園は日本有数の広さを誇る個人の藤園であります。1977年に開園され、約1,000坪の藤棚に4月の下旬から5月に見事な藤の花が咲き、大勢の観光客が訪れております。場所を御存じの方は想像がつくかと思いますが、八幡東区の河内貯水池付近の山あいであり、交通の便が良くなく現在は路線バスが廃止され車の長い列が続き、2015年には約4時間待ちの大渋滞となりました。その対応に翌2016年に公式サイトを開設され、混雑抑制のために予約制を導入し、渋滞緩和策に北九州市のほうからシャトルバスの運行や道路に電光掲示板を設置するという渋滞緩和策を側面から御支援していただいたようです。併せて、一番大きな効果があったのは駐車場のチケット制を導入したことだというふうにお聞きしました。このチケット制を導入したことが予想以上の成功につながり、翌年にはこれは完全に渋滞は解消したようです。「渋滞の果てにある幻の花園」から「いつでも素早く行ける実在の植物園」になったという言葉も書いておられました。警察の方にもお尋ねしたんですけれども、駐車可能台数分のチケットを販売することで、観光地に向かう自ら渋滞を避けようとする方々がその時間帯のチケットを買わないとなれば、午前中に集中してた渋滞が「私たちは昼から行こう。」とかいうようなことで、行く側が選択できるようになるというようなことでございます。例えば、500台駐車できる駐車場に500台までは車はそれなりにすんなりと入っていくんですけども、満車になった状態でそこから車が出ないことには渋滞が始まるというようなことが渋滞の一番の要件になりますので、チケット制を導入することによってそれが大きく緩和されるというお話をお聞きしました。

話を元に戻しますと、芦屋町の渋滞緩和策の一つとして夏のレジャープールの駐車場の渋滞は、駐車場のチケット制を導入することによって完全に解消するのではないかと考えております。プールに訪れる利用者にとって、渋滞がなく駐車場までスムーズに到着するスポットになれば、さ

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

らなる夏の人気スポットになると考えております。このことから駐車場のチケット制は交通分散を図ることができ、スムーズな地域交通が生まれると思うのですが、どのようにお考えかお尋ねをします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

駐車場のチケット制導入についてということですが、現在のレジャープール開催期間の駐車場の利用状況としましては、令和5年度実績でございますが期間中での合計が2万6,658台となっており、過去5年間の中で最も多くなっております。また、1日に1,000台を超えた日は10日間で、1日最大は1,596台となっております。この状況から町内での渋滞はピーク時に発生する可能性はありますが、海浜公園駐車場は約1,000台の駐車が可能となっておりますので、現状では警備員の配置や誘導方法の見直し、駐車スペースの確保のための区画や通路等の工夫などを行うことで、速やかな駐車を促し町内の渋滞緩和を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次に駐車場と遊休資産の活用についてお尋ねをします。

遊休資産の活用について。旧芦屋中央病院跡地については活用方法を検討したけれども、現在は現状のまま保有することになったと思っておりますが、その認識でよいかお尋ねをします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

企画政策課にですね、確認したところ、「芦屋中央病院跡地活用については、令和元年度に附属機関の芦屋中央病院跡地検討委員会を設置し、サウンディング調査を行うなど検討を行いました。その結果、今後の方針として芦屋中央病院跡地について、芦屋港レジャー港化の進捗状況を踏まえた活用を行うことで跡地活用の可能性が向上します。このため検討を一旦中断し、事業の状況を踏まえた上で再検討を行うことといたしました。芦屋中央病院跡地活用の現状としましては、前回検討した令和元年度から4年程度経過し、芦屋港レジャー港化が進捗していること。新型コロナウイルス感染症によりテレワークなど社会状況が変化していることなどから本年10月にサ

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

ウンディング調査を実施しましたが、有効な活用策の提案はありませんでした。今後、芦屋港レジャー港化の進捗状況、住民や町議会の意見などを踏まえ、芦屋中央病院跡地等の活用の検討を進めていきたいと考えている。」と聞いております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

現状の——旧芦屋中央病院跡地の現状ですね、そのままの状態ですけれども、そのまま保有する目的があるのか、また、管理費は年間どのくらいかかっているのかコストをお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

こちらの件につきましては、財政課に確認したところということでお答えいたします。「旧芦屋中央病院跡地は使用する目的が決まっていないため普通財産として現在管理を行っております。管理費として建物の機械警備に関する費用として年間約15万円を支出し、敷地内の樹木伐採等、臨時的な対応に関する費用として年間数万円を支出する場合もある。」と聞いております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今後、一体的に旧芦屋中央病院の遊休資産土地を活用する際に、新たに活用する事業者が取壊しの費用を含めて提案をされる可能性があるのであれば、現状のまま保有することも選択肢の一つかなというふうに思っておりますが、仮に、更地にして活用方法を新たな事業者に今後提案するようなことがあるのであれば、次の事業者が何かしらの建物を建てるまでの間は駐車場として今後整備し、さらなるレジャー港やプール開催期間の駐車場として活用できて渋滞緩和にもつながると思うのですが、その点をお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

「旧芦屋中央病院の活用方法が決まるまでプール開催期間中の駐車場として活用しては。」とい

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

うお話だと思いますが、車を駐車できるスペースを多く確保することは渋滞緩和に有効的な対策だと考えます。しかしながら、海浜公園駐車場が満車となり町内で渋滞が発生する時間や状況など不確定要素も多く、費用対効果や運用面など解決すべき課題が多いと考えております。現状では先ほど申しましたが、海浜公園駐車場を効果的に活用する方向で対応していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ぜひ、町内の渋滞緩和策につながるよう検討を十分に関係各所と連携を図っていただければと思っております。今後、芦屋町はレジャー港の開業を控えています。事業を始めるまでにはいまだ少し検討の時間もあるかと思えます。現状の旧芦屋中央病院跡地には、以前使用していた駐車場が当時のまま使用可能な状態で保持をされています。この駐車場の現状での活用も含めて町内に渋滞が発生する状況がより少なくなるように、経験則や数字に基づくデータ、そして人の流れ等を勘案しながら渋滞緩和策のアップデートを期待いたしまして、次の件名に移ります。

件名2、町内を花いっぱいにする施策についてです。

ここ数年のコロナの影響で随分と様々な変化が発生をしました。人とのつながりが希薄になっていたことを町民の方は感じておられます。今回、私のほうに声をいただいた方は「昭和時代の人のつながりのような形は難しいだろうけれども、令和時代に合った人とのつながりの一つとして、住民が連携し町内に花を植えるボランティアとして参加をし、参加者同士の顔が見える人間関係に少しでもなるのであればいいのではないのでしょうか。」というお声をいただきました。さらには散歩される方や町外から見えられる方々の癒やしの効果として、花は海との効果と相まって心身にいい影響を醸し出すのではないのでしょうか。

そこで要旨に沿って質問させていただきます。

町内の花を植える事業について、まず現状どのような花をどこに植えているのかをお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

芦屋町におきます花の植栽状況についてお答えいたします。芦屋町が管理しております花壇は役場前や福岡銀行前など10か所あります。令和5年の夏にはマリーゴールド、サルビア、同じく冬にはキンセンカ、ビオラなどを植栽し、町民の皆様に見て楽しんでいただいております。過

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

去には千日紅、パンジー、アリッサムなどを植えております。また、北九州県土整備事務所が管理しております国道495号、県道水巻芦屋線においては、街路樹の下に福岡県さわやか道路美化促進事業を活用した団体の協力のもと、春になればマツバギクが咲き乱れ彩りを添えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

次に移ります。

町民が関わる花のイベントについてはどのようなものがあるのかをお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

それではお答えいたします。

芦屋町では大規模なイベントは行っておりませんが、町の花壇に花を植える前に広報で花ボランティアを募集し、町民の皆様や小学校の児童と一緒に花植えを行っております。令和5年は夏冬合わせて50名程度の参加で住民同士の交流が図られております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今の課長の答弁で、大規模なイベントはないとのことではありますが、町民が花を植えることについてはどのようにお考えかお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

それではお答えいたします。

第6次芦屋町総合振興計画におきましては、「緑化活動の推進については、花ボランティア事業、花苗配布などを実施し、住民の緑化意識の向上に努める。」を掲げております。その取組の一つとして、希望により各自治区にあります公園などで地域のボランティアの方々に花植えを行っていただいております。花植えにおきましては芦屋町緑化推進協議会補助金の活用もできますので、御検討いただければと考えております。花を植えることは幾つかの効果があると考えております。

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

まず第一に花を植えることは美化効果があり、地域全体の景観を向上させます。2番目には花壇に人が集まることで住民同士の交流が深まり、地域コミュニティが図られます。3番目には酸素を生産し空気を浄化する役割など環境に良い影響を与えます。

本田議員がおっしゃられているとおり花を植えることは地域全体に良い影響を与え、美しさ、社会的なつながり、そして環境への貢献や心身の健康を向上させるのではないかと考えております。

芦屋町といたしましては、第6次芦屋町総合振興計画や芦屋町環境基本計画に掲げております花ボランティア活動への参加者数を増やすことや取組の充実など、緑化意識の向上に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町は福岡県の中でも決して面積の大きな町ではありませんが、町内を見渡してみますとまだまだたくさん花を植える場所があるかと思えます。町道の街路樹の下や、自治区の公民館や公園の周り、そして遊休地となっている場所への花植えや現在花を植えている場所の花を増やしていくなど町全体に花を増やしていくことが考えられますが、その中でも公園の広場の空きスペースの花を増やしていくことについてのお考えをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

それではお答えいたします。

先ほども答弁させていただきましたように、街路樹の下や希望により各自治区に設置しております公園などでは、地域のボランティアの方々で季節に応じた花を植えていただいております。海浜公園などのその他公園管理者から花植えについて申入れがありましたら、芦屋町緑化推進協議会で検討を行いたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

花がたくさん植わった公園の効果としては、まずは見た目にきれいで華やかで美しいと思います。また、日頃から散歩を楽しまれている方々には、目の保養になることは容易に考えることが

できます。また、町外から芦屋町にみえる方への公園の花による緑化は和んでいただけのことと思います。特に海のそばにある公園であれば、花を觀賞する楽しみと散歩や軽めのジョギングなど海を見ながら海風を感じながら体を動かすことと相まって、観光としても人気のスポットになるかと思えます。例えば海浜公園の遊具の奥にある広場の活用など再度考慮されてみてはいかがなものかなと思えます。お聞きしたところでは「潮風や飛砂の影響でなかなか花が育たない。」とのお話も伺ったこともあるんですが、一方ではその土地に合った土壌の改良や花の品種を考慮すれば、十分に花を育成できる話も伺ってきました。私は花の知識がたくさんあるわけではありませんで詳細は専門家の方に任せるとしても、芦屋町が公園の花をたくさん植えていく緑化に今以上力を入れていかれて、公園の花をいっぱいにしていくことは地域住民の力をお借りするとともに、希薄化した地域連携の向上にもつながっていくと思うのですが、いかがお考えかお尋ねします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

それではお答えいたします。

先ほども答弁させていただきましたように、希望する各自治区の公園に植えられた花は地域のボランティアの方々に管理されております。花を植えるため花壇に人が集まり住民同士の交流も深まりますので、本田議員がおっしゃられているように地域連携の向上につながっていくと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ぜひとも緑化意識の向上に期待をしたいところです。

次に要旨の2に移ります。公園の広場の活用について。

現在、海浜公園にはフジバカマの花畑があります。私も下手な写真ですが、議会だよりの表紙を飾ることを期待して、そこに飛来するアサギマダラを撮影に行きました。フジバカマが植えられた花畑にはアサギマダラの名前であります蝶々が飛んできます。花の開花の時期に、先ほど申しましたアサギマダラの舞うシーンを撮りに海浜公園へ撮影に行きました。ほかにも数人の方が撮影に見えられており、人気の観光スポットであるなと感じたところです。アサギマダラについて少し説明をしますと、海を越えて1,000キロ以上も移動することがある青緑色のきれいな蝶々であり、ここ最近であれば大人気漫画、アニメ「鬼滅の刃」で「胡蝶しのぶ」のモチーフとな

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

っております。このように蝶々が飛んでくる花畑を維持しながら少しずつ規模を大きくしていくと、さらなる蝶々が飛んできて観光の1つになるかと思えます。そのためには花畑の整備が必要となりますが、現状のフジバカマの花畑は遊具一つほどの大きさであります。今後これを活用し、広大な敷地に花を植えることについてお尋ねをいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

海浜公園の魅力向上を図る一環としまして、2年ほど前より指定管理者である芦屋町観光協会の発案により「旅する蝶」として知られるアサギマダラの飛来を促す取組を行っております。現在は海浜公園ワンパーク内の一角に花壇を実験的に設置し、花の育成状況やアサギマダラの飛来状況などの観察を行っているところです。状況としましては、一昨年はフジバカマが順調に育ち多くのアサギマダラが飛来し、蝶を見るために多くの来園者が訪れました。しかし、昨年はフジバカマが枯れてしまい、アサギマダラの飛来は見られませんでした。このように海浜公園でのフジバカマ育成が条件的に適しているか現在試行錯誤している状況であり、もう少し様子を見ていきたいと考えております。今後、小規模な花壇等の増設についてはフジバカマの育成状況にもよりますが、公園利用者の状況や管理面なども踏まえ、指定管理者とも協議していきたいと考えております。

なお、議員御提案のフジバカマの花畑拡大については今後、公園整備計画等を検討する際の御意見として賜りたいと思います。

以上です。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

芦屋町はですね、町の花に「ハマユウ」があります。夏井ヶ浜のハマユウ自生地は町外者の方々の観光スポットであり、自生するハマユウは別称でハマオモトとも言われており、芦屋町のシンボルとして知られており、九州本土で夏井ヶ浜が自生の北限と言われており、毎年夏に見事な花を咲かせています。このハマユウを山鹿の現在の自生地をはじめとして、町内の数か所にまとめた花を今後咲かせるハマユウの花の町内回遊ができるような花植えも、長期的には非常に効果があるのではないかと考えております。私が以前勤務していた職場には、ハマユウの花を求めて花の時期には町外からたくさんの方が見えられて、自生している場所までの道を聞かれたり、見られた帰りに鑑賞した感想を述べられたりと、町外者の方は非常に興味を持たれており、魅力ある芦屋町の観光をPRするすばらしい場所と考えております。このようなすばらしいハマユウを

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

町内の公園や空きスペースで増やしていくことで、公園の効果として、人の集客の効果が出てくるのではないかと考えておりますが、お考えをお尋ねいたします。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 村尾 正一君

それではお答えいたします。

御存じのとおり芦屋町の町花であります「ハマユウ」は、九州本土で夏井ヶ浜が自生地北限として毎年7月下旬から8月上旬にかけて咲き誇る花で、町のシンボルとしても知られております。また、福岡県の天然記念物にも指定されております。花が咲く時期になりますと、町内外から多くの見物客が訪れ、日没後には甘い香りを漂わせ、みずみずしい緑色と白い花が調和してとてもきれいです。この「ハマユウを町内の公園や空きスペースに植えたら」ということでございますが、現在ハマユウが自生している夏井ヶ浜には駐車スペースがあることや海に近いこと、また、花が夏に咲くことなど複数の要因で多くの見物客が訪れているのではないかと考えられます。人為的に植えた場合、場所や規模、また、その後の管理など解決しなければならない課題があります。

芦屋町といたしましては、繰り返しの答弁にはなりますが、まず第6次芦屋町総合振興計画や芦屋町環境基本計画に掲げております花ボランティア活動への参加者数を増やすことや取組の充実など、緑化意識の向上に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ぜひ課題の解決に取組をお願いしたいと思います。町内に花を植える事業や広場の活用などお尋ねしてきましたが、それには人材の確保が必要かと思っております。先ほど課長が答弁されました第6次芦屋町総合振興計画や芦屋町環境基本計画に掲げている花ボランティア活動への参加者数をいかに増やして、住民の方々に緑化意識を持っていただくことが重要かと思っております。

近隣の自治体でいえば、直方市のチューリップフェアが遠賀川流域の春の風物詩となっております。今年開催されました直方チューリップフェア2023では、市民で咲かせるチューリップとして1,300人の植栽ボランティアの協力によって20万球のチューリップが遠賀川のリバーサイドパークで咲き誇りました。1996年の花の都市宣言をしたときから直方市として力を入れていくようになったようです。また、若松にありますグリーンパークはバラの花を咲き誇る日本一の美しさを目指すバラ園として有名になりました。春と秋に開催されますバラフェアには県

令和5年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

内外からたくさんの方が訪れる人気のイベントの一つになっているようです。併せて、花の相談やコンサートのイベントなどバラにちなんだイベントが企画をされています。

芦屋町の山鹿の海岸線や芦屋海岸など海と花を自然からの贈物としたイベントは、人気のイベントに成長する可能性を多く秘めているかと思います。今後の観光を考えるときに、町の中心から円を描いたときに、海が半分あるので難しいと言われる一方、商業圏ではないと言われる海の半分の醸し出す自然の力の大きさを最大限活用する絶好な立地条件にあるものという発想もあるかと思います。環境が変わらないのであれば、発想の転換が地域社会の発展につながっていくのではないかと期待をしまして、一般質問を終わらせていただきます。

○議長 内海 猛年君

以上で、本田議員の一般質問は終わりました。